



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
津嶋橋

昭和25年台風時に被害を受けた津嶋橋の様子。欄干が壊れ、橋板を超えるほど潮が満ちている。この年はしばしば台風の襲来や大雨があり、各地で大きな被害があった。

「思い出の1ページ」

津嶋橋に最も近い場所で生まれ育った松田邦利さん（89歳）が橋の歴史を話してくれました。

津嶋神社の夏まつりは、橋が出来るまでは、漁船におみこしや獅子、太鼓を乗せて島を3周ほどしよったんや。写真の橋は昭和8年6月に掛けた最初の橋じゃ。橋が出来るまでは潮が引いたときに津嶋神社まで歩いて渡った人が「海に入ってもたきん水を使わしてほしい」とよく言ってきたなあ。その頃は旧暦の6月24・25日の小潮の時期にまつりをしとったんや（現在は8月4・5日に実施）。低い高さの橋でも潮が橋板までは来んかった。この橋の渡り初めは、私が10歳くらいの時で、近所の子どもたちとみんな渡ったんや。お礼にくれたお菓子は当時は珍しく、奪い合って食べたんを覚えとるな。その後、昭和40年の伊勢湾台風で壊れ、再建したんが2代目の橋。昭和63年6月に現在の橋にやり直したんや。今の橋は中央部が陸や島の部分より1m50cm高い「たいこ橋」になっとるで。

編集 後記



光輝く農家の皆さん取材していくと共通点が見えてきました。

一つは「つながり」もう一つは「こだわり」、そして「挑戦」です。

自分の農地に立ち、作業をしていくため、孤独なように思えますが、実際は違っていました。異業種の人もつながりを持つ農業者がたくさんいました。そして、その出会いが新たな挑戦を生んでいきます。

「失敗したなっていうことありましたか？」との質問に皆さん「山ほどあるよ」との回答。それでも挑戦は止めません。ある男性の農業者は「失敗だらけやけど、いろんな失敗があつてこそそのノウハウがあるんよ」と笑顔で話してくれました。失敗という苦い経験を笑顔で話すことができるってかっこいいなあと同姓ながら感じる瞬間でした。

農業という夢ある産業。それはいにしえからの変わらないという伝統と挑戦から新しい芽が出るんだと思いました。惚れた仕事を愛し抜く姿は、机上では見ることのできない経験となりました。